エト3R-32

37-236

後世への最大遺物

はしがき

此小册子は明治廿七年七月相州箱根驛に於て開設せられし基督教徒第六夏期學校に於て述べし余の講話を仝校委員諸氏の承諾を得て爰に印刷に附せしものなり。

事、基督教と學生とに關する事多し、然れとも亦多少一般の人生問題を論究せざるに非ず、是れ蓋し余の親友京都便利堂主人が强て之を發刊せし故なるべし、讀者の寛容を待つ。

明治三十年六月二十日

東京青山に於て

内村鑑三

再版に附する序言

一篇の基督教的演説、別に之を一書となすの必要なしと思ひしも前發行者の勸告により、印刷に附して世に公にせしに既に數千部を出すに至れり、此に於て余は其多少世道人心を裨益することあるを信じ今また多くの訂正を加へて再版に附することゝはなしぬ、若し此小册子にして猶ほ新福音を宣傳するの機械となるを得ば余の幸福何ぞ之に如かん。

東京角筈村に於て

明治三十二年十月三十日　　内村鑑三

夏期演説

後世への最大遺物

内村鑑三述

第一回

時は夏でございますし、處は山の絶頂でございます。それで此處で私が手を振り足を飛ばしまして私の血に熱度を加へて、諸君の熱血を茲に注ぎ出すとは或は私に出來ないことではないかも知れません、併し之は私の好まぬ所、又諸君も餘り要求しない所だらうと私は考へます

それで基督教の演説會で寅兄者が腰を掛けて話をする

のは多分此講師が嗤矢であるかも知れない(滿場大笑)、併ながら若し斯うする事が私の目的に適ふことでござりますれば、私は先例を破つて此處であなた方とゆつくり腰を掛けてお話をしても構はないと思ひます。是も亦破壞黨の所業だと思召されても宜うございます(拍手喝采)。

そこで私は「後世への最大遺物」と云ふ題を掲げて置きました。若し此事に就て私の今迄考へました事と今感じまする事とを皆な述べまするならば何時もの一時間より長くなるかも知れませぬ。若し長くなつて詰らなくなつたなら勝手にお歸りなすつて下さい、私も亦草臥れましたならば或は途中で休みを願ふかも知れませぬ。若し餘り長くなりましたならば明朝の一時間も私の戴いた時間でござりますから其時に述べるかも知れませぬ。ドウゾ斯う云ふ清い靜かな所にありまする時には東京や又は其他の騷しい所で皆氣の立つて居る所でする樣な騷しい演說を私はしたくないです。私は此處で諸君と膝を打合せて私の感情を演說し又諸君の質問にも應じたいと思ひます。

此夏期學校に來ます序に私は東京に立寄り、其時私の親

爺と詩の話を致しました。親爺が山陽の古い詩を出して呉れました。私が初めて山陽の詩を讀みましたのは、親爺から貰つた此本でした(本を手に持て)。で此夏期學校に來る序でに、其山陽の本を再び持て來ました。其中に私の幼さい時に私の心を勵ました詩がございます。其詩は諸君も御承知の通り山陽の詩の一番初めに載つて居る詩でございます、十有三春秋、逝者已如水、天地無始終、人生有生死、安得類古人、千載列青史」。有名の詩でございます、山陽が十三の時に作つた詩でございます。それで自分の生涯を顧みて見ますれば、まだ外國語學校に通

學して居りまする時分に此詩を讀みまして、私も自(おのづ)から同感に堪へなかつた。私の樣にこんなに弱いもので子供の時から身體が弱うございましたが、斯う云ふ樣な弱い身體であつて別に社會に立つ位置もなし、又私を社會に引ッ張つて呉れる電信線もございませぬけれども、ドウゾ私も一人の歴史的の人間になつて、さうして千載青史に列するを得る位の人間になりたいと云ふ心が矢張り私にも起つたのでございます。其感情は決して惡い感情とは思つて居ませぬ。私か其事を父に話し、友達に話した時に彼等は大へん喜んだ。「汝にそれ程の希望が

あつたならば汝の生涯は誠に頼もしい」と言つて喜んで呉れました。所が不意に基督教に接し、通常此國に於て説かれました基督教の教を受けたときには、青年の時に持つた所の千載青史に列するを得んと云ふ此希望が大分なくなつて來ました。それで何となく厭世的の考が起つて來た、即ち人間が千載青史に列するを得んと云ふのは、誠に是は肉慾的、未信者的、heathen（ヒーセン）的の考である。シリスチヤンなどは功名を欲することは爲すべからざることである。我々は後世に名を傳へるとか云ふことは、根コソギ取つて仕舞はなければならぬと云ふ樣な考が

出て來ました。夫故に私の生涯は實に前の生涯より清い生涯になつたかも知れません。けれども前のよりは詰らない生涯になつた、マーどうか成る丈け罪を犯さない樣に、成る丈け神に逆らつて汚らはしいことをしない樣に、唯々立派に此生涯を終つて基督に依つて天國に救はれて未來永遠の喜を得んと欲する考が起つて來た。そこで其時の感情は成程其中に一種の喜がなかつたではござりませぬけれども以前の感情とは正反對の感情でありました。さうして此世の中に事業を仕やう、此世の中に一つ旗を擧げやう、此世の中に立つて男らしい生

涯を送らうと云ふ念がなくなつて仕舞ひました。殆んどなくなつて仕舞ひましたから、私は所謂坊主臭い因循的の考になつて來ました。それで又私ばかりでなく私を敎へて呉れる人がサウでありました。度々……茲には宣敎師は居りませぬから少しは宣敎師の悪口を言つても許して下さるかと思ひまするが……宣敎師の所に往つて私の希望を話しますると、「あなたはそんな希望を持つてはいけませぬ、其樣なことはそれは慾心でございます。それはあなたのまだ基督敎に感化されない所の心から起つて來るのです」と云ふ樣なことを聞かされないではなかつた、私は諸君達もサウ云ふ樣な考に何處かで出會つたことはないことはないだらうと思ひます。成程千載青史に列するを得んと云ふことは考の致しやうに依つては誠に下等なる考であるかも知れませぬ。我々が名を此世の中に遺したいと云ふのでございます。此一代の僅かの生涯を終つて其迹は後世の人に我々の名を褒め立つて貰ひたいと云ふ考、それは成程或る意味から言ひまするとも私共に取つては持つてはならない考であると思ひます。丁度埃及(エジプト)の昔の王樣が已れの名が萬世に傳はる樣にと思ふて三角塔(ピラミッド)を作つた。即

ち世の中の人に彼は國の王であつたと云ふことを知らしむる爲に萬民の勞力を使役して大きな三角塔（ピラミッド）を作つたと云ふやうなことは、實に基督信者としては持つべからざる考だと思はれます。有名の天下の糸平が死ぬときの遺言は「己れの爲めに絶大の墓を立てろ」とで有つたそうだ。「さうして其墓には天下の糸平と誰か日本の有名なる人に書いて貰へ」と遺言した。それで諸君が東京の牛の御前に往つてごらんなさると立派な花崗石で伊藤博文さんが書いた「天下之糸平」と云ふ碑が建つて居ります。それで其千載にまで天下の糸平を此の世の中に

傳へよと云ふた糸平の考は私はクリスチヤン的の考ではなからうと思ひます。又さう云ふ例が外にも澤山ある、此間亞米利加のある新聞で見ましたに或る貴婦人で大金持の孀婦が私はドウゾ死んだ後に私の名を國人に覺えて貰ひたい、然し自分の持つて居る金を學校に寄附するとか、或は病院に寄附するとか云ふことは普通の人の爲すところなれば私は世界中にない所の大なる墓を作つて見たい、さうして千載に記憶されたい」と云ふ希望を起した。先日其墓が成つたさうでございます。ドンナに立派な墓であるかは知りませぬけれども、其計算に

驚いた、二百萬弗掛つたと云ふのでございます。二百萬弗の金を掛けて自分の墓を建つたのは確かに基督敎的の考ではございません。

併ながら或る意味から言ひますれば千載青史に列するを得んと云ふ考は私はそんなに悪い考ではない。ないばかりでなくそれは本當の意味に取て見まするならば、基督敎信者が持つても宜い考でございまして、それは基督敎信者が持つべき考ではないかと思ひます。尙ほ我々の生涯の解釋から申しますると此の生涯は我々が未來に往く階段である。丁度大學校に這入る前の豫備校

である。若し我々の生涯が僅か此五十年で消えて仕舞うものならば實に詰らぬものである。私は未來永遠に私を用意する爲に此世の中に來て、私の流す所の涙も、私の心を喜ばしむる所の喜も、喜怒哀樂のこの變化と云ふものは、私の靈魂を段々と作り上げて、終に私は死なない人間となつて此世を去つてから、モット清い生涯を何時迄も送らんしするは私の持て居る確信でございます。

併ながら其ことは純粹なる宗敎問題でございまして、それは私の今晩あなた方にお話を致したいことではムりません。

然しながら私に爰に一ッの希望がある、此世の中をズット通り過ぎて、安らかに天國に往き、私の豫備學校を卒業して天國なる大學校に這入つて仕舞つたならば、それで澤山かと已れの心に問ふて見ると、其時に私の心に清い慾が一ッ起て來る。即ち私に五十年の命を與れた此美しい地球、此美しい國、此樂しい社會、此我々を育てゝ與れた山、河、是等に私が何も遺さずには死んで仕舞いたくないとの希望が起て來る。ドウゾ私は死んでから啻に天國に往くばかりでなく、私は茲に一の何かを遺して往きたい。それで何も必らずしも後世の人が私を褒めたつ

て與れいと云ふのではない、私の名譽を遺したいと云ふのではない、唯私がドレ程此地球を愛し、ドレ丈此世界を愛し、ドレ丈私の同胞を思つたかと云ふ紀念物を此世に置いて往きたいのである、即ち英語で言ふ Memento を殘したいのである。斯う云ふ考は美しい考であります。私が亞米利加に居りましたときにも、其考が度々私の心に起りました。私は私の卒業した米國の大學校を去るときに同志と共に卒業式の當日に愛樹を一本校内に植えて來た。是は私が四年も育てられた私の學校に私の愛情を遺して置きたい爲であつた。中には私の同級生

で、金のあつた人はそればかりでは滿足しないで、或は學校に音樂室を寄附するもあり或は書籍を寄附するもあり、運動場を寄附するもありました。

然るに今我々は世界と云ふ此學校を去りまするときに我々は何にも此處に遺さずに往くのでございますか。其點から言ふと矢張り私には千載青史に列するを得んと云ふ望が殘つて居る。私は何か此地球に Memento を置いて逝きたい。私が此地球を愛した證據を置いて逝きたい。私が同胞を愛した紀念碑を置いて逝きたい。それ故にお互に茲に生れて來た以上は、我々が喜ばしい

國に往くかも知れませぬけれども、併し我々が此の世の中に在る間は少しなりとも此の世の中を善くして往きたいです。此の世の中に我々の Memento を遺して逝きたいです。有名なる天文學者のハーシェルが二十歳ばかりの時に彼の友人に語て「わが愛する友よ我々が死ぬときには我々が生れた時より、世の中を少しなりとも良くして往かうではないか」と云ふた。實に美しい青年の希望ではありませんか。「此世の中を私が死ぬときは私の生れたときよりは少しなりとも善くして逝かうじやないか」と。ハーシェルの傳記を讀んで御覽なさい。彼

は此世の中を非常に善くして逝つた人で有ます。今まで知られない天體を全く描いて逝つた人で有ます。南半珠の星を何年間か亞弗利加の希望峰殖民地に行まして、スッカリ圖に戴せました故に今日の天文學者の智識はハーシェルに依つてドレ丈け利益を得たか知れない。それが爲に航海が開け、商業が開け、人類が進歩し、遂には宣教師を外國にやることが出來、基督教傳播の直接間接の助けにドレ丈でなつたか知れませぬ。我々もハーシェルと同じに互に皆希望 Ambition を遂げタウはございませぬか。我々が死ぬまでには此世の中を少しなりとも

善くして死にたいではありませんか。何か一つ事業を成し遂げて出來るならば我々の生れた時よりも此日本を少しなりとも善くして逝きたいではありませんか。此點に就ては我々皆々同意であらふと思ひます。それで此次は遺物の事です。何を置いて逝かうと云ふ問題です。何を置いて我々が此愛する地球を去ろふと云ふのです。其事に就いて私も考へた。考へたばかりでなく度々やつて見た。何か遺したい希望があつて之を遺さうと思ひました。それで後世への遺物も澤山あるだらうと思ひます。それを一々御話することは無益

のことでございますけれども、此中に一番に我々の思考に浮ぶものからお話を致したいと思ひます。

後世へ我々の遺すものゝ中に先つ第一番に大切のものがある、何であるかと云ふと金です。我々が死ぬ時に遺産金を社會に遺して逝く、已れの子供に遺して逝くばかりでなく、社會に遺して逝くと云ことです、それは多くの人の考にある所ではないかと思ひます。それでサウ云ふことを基督信者の前に言ひますると、金を遺すなどと云ふことは實に詰らないことではないかと云ふ反對がツキに出るだらうと思ひます。私は覺えて居ります。

明治十六年に始めて札幌から山男になつて東京に出て來ました。其時分に東京には奇體な現象があつて、それを名けてリバイバルと云ふたのです。其時分私は後世に何を遺さんかと思つて居りしかと云ふに、私は實業教育を受けしものであつたから、勿論金を遺したかつた、億萬の富を日本に遺して、日本を救つて遺りたいと云ふ考を有つて居りました。自分には明治廿七年になつたら、夏期學校の講師に撰ばれると云ふ考は、其時分にはチツトもなかつたです(滿場大笑)。金を遺したい金滿家になりたいと云ふ希望を持つて居つたのです。所が此事を

或るリバイバルに非常に熱心の牧師先生に話した所が、其牧師さんに私は非常に叱かられました。「金を遺したいと云ふイクヂのない、そんなものはドウにもなるから、君は福音の爲に働き給へ」と言ふて戒められた、然し私は其決心を變更しなかつた。今でも變更しない。金を遺すものを賤めるやうふ人は矢張り金のことに賤しい人であります。吝嗇な人であります。金と云ふものは、此處で金の價値に就て長い講釋をするには及びませぬけれども、併ながら金と云ふものゝ必要は、あなた方十分に認めておゐでなさるだらうと思ひます。金は宇宙のも

のであるから、金と云ふものは何時でも出來るものたと云ふ人に向つて、フランクリンは答へて「そんなら今拵へて見給へ」と申しました。それで私に金などは入らないと云ふた牧師先生はドウ云ふ人で有つたかと云ふに、後で聞いて見ると、矢張り隨分金を慾しがつて居る人だそうです。それで金と云ふものは、何時でも得られるものであると云ふことは、我々が始終持つて居る考でござりますけれども、實際金の入るときになつてから金と云ふものは得るに非常に六ケ敷いものです。さうして或時は富と云ふものは、何處でも得られる樣に、空中にでも懸

つて居るものゝ樣に思ひますけれども、其富を一ッに蒐めることの出來るものは、是は非常に神の助を受くる人でなければ出來ない事であります。丁度秋になつて雁は天を飛んで居る。それは誰れが捕つても宜い。然し其雁を捕ることは六ヶ敷いことであります。人間の手に雁が十羽なり二十羽なり集まつてあるならば、それに價値があります。即ち手の上の一羽の雀は木の上に居る所の二羽の雀より貴いと云ふのは此事であります。そこで金と云ふものは宇宙に浮いて居るやうなものでござりますけれども、併ながらそれを一つに纏めて、さうして後世の人が、是を用ゐることが出來る樣に溜めて往かんとする希望が諸君の中にあるならば、私は私の滿腔の同情を以て、イエス、キリストの御名に依つて、父なる神の御名に依つて、聖靈の御名に依つて、教會の爲に、國の爲に、世界の爲に「君よ金を溜め玉へ」と云ふて此事を其人に勸めるものです。富と云ふものを一つに蒐めると云ふことは一大事業です。それで我々の今日の實際問題は、社會問題であらうと、教會問題であらうと、青年會問題であらうと、教育問題であらうとも、それを煎じ詰めて見れば、矢張り金錢問題です。茲に至つて誰か金が不用だな

そと云ふものがありますかドウゾ基督信者の中に金持が起つて貰ひたいです。實業家が起つて貰ひたいです。我々の働くときに、我々の後楯になりまして、我々の心を十分に覺つた人が我々を見繼ひて呉れると云ふことは、我々の目下の必要でござります。それで金を後世に遺さうと云ふ希望を持て居る所の青年諸君が、其方に向つて、神の與へたる方法に依つて、我々の子孫に澤山金を遺して下さらんことを私は實に祈るです。亞米利加の有名なヒラデルヒヤのヂラードと云ふ佛蘭西の商人が亞米利加に移住しまして、建てた孤兒院を私は見ました、

是は世界第一番の孤兒院です。凡そ小學生徒位のものが七百人計り居ります。中學大學位迄の孤兒をズッと併べまするならば、多分千人以上の樣に覺えました。其孤兒院の組織を見まするに、我々の今日日本に在る所の孤兒院の樣に、寄附金の足らない爲に事業が差支へる樣な孤兒院ではなくしてヂラードが生涯かゝつて溜めた金を悉く投じて建てたものです。ヂラードの生涯を書いたものを讀んで見まするとなんでもない。唯其一つの目的を以て金を溜めたのです。彼に子供はなかつた、妻君も早く死んで仕舞つた。「妻はなし、子供はなし、私に

は何にも目的はない。けれども。ドウカ世界第一の孤見院を建つて遺りたい」と云ふて、一生懸命に働きて拵えた金で建てた孤見院でございます。其時分は亞米利加開國の早い頃でありましたから。金の溜方が今の様に早く行かなかつた。併し一生涯掛つて溜めた所のものは大凡二百萬弗ばかりでありました。それを以てベルシルバニヤ洲に人の氣の着かぬ地面を澤山買つた。それで死ぬときに「此金を以て二つの孤見院を建てろ、一は己れを育てゝ呉れた所のニューオルレンスに建て、一は己れの住んだ所のヒラデルヒヤに建てる」と申しました。

それで妙な癖心があつた人と見へまして、教會と云ふものを大層嫌つたのです。それで「己れ」は別に此金を使ふことに就いて條件は付けないけれども、己の建つた所の孤見院の中に、デノミチーション即ち宗派の教師は誰でも入れてはならぬ」と云ふ稀代な條件を附けて死んで仕舞つた。それ故に、今でもメソヂストの教師でも、監督教會の教師でも、組合教會の教師でも此孤見院には這入るとは御氣の毒でございますけれども出來ませぬ(大笑)。其外は誰でも其處に這入ることが出來る。それで此孤見院の組織のことは長いことでございますから、今後にお

話申しませぬけれども、前に述た二百萬弗を以て買集めました所の山です。それが今日のペンシルベニヤ洲に於ける石炭と鐵とを出す山でございます。實に今日の富は殆んど何千萬弗であるか分らない。今はドレ丈け事業を擴張しても宜い、唯々擴張する人が居ない丈けです。それで若し諸君の中、ヒラデルヒヤに往く方があれば、一番に先づ此孤兒院を往つて見ることをお勸め申します。

又有名なる慈善家ピーボデーは如何にして彼の大業を成したかと申しまするに、彼が始めてベルモントの山から

ら出るときにはボストンに出て大金持にならうと云ふ希望を持つて居つたのでございます。彼は一文なしで故郷を出て來ました。それでボストンまでは其時分は勿論瀛車はありませぬし、又馬車があつても無錢では乘れませぬから。或る旅籠屋の亭主に向ひ、「私はボストンまで往かなければならぬ。併ながら日が暮て困るから今夜泊めて呉れぬか」と言ふたら、旅籠屋の亭主が「可愛想だから泊めてやらう」と云ふて喜んで引受けた。けれども其時にピーボデーは旅籠屋の亭主に向つて「無錢で泊まるとは嫌だ何かさして呉れるならば泊まりたい」と云

ふた。所が旅籠屋の亭主は「困るならば自由に泊まれ」と言ふた、併しビーボデーは「それでは濟まぬ」と云ふた。サウして家を見渡した所が、裏に薪が澤山積んであつた。それから「御厄介になる代はりに、裏の薪を割らしてください」と云ふて旅籠屋の亭主の承諾を得て、晝過ぎ掛つて夜まで薪を挽き之を割り、大抵此位で旅籠賃に足ると思ふ位まで働きまして、然して後に泊つたと云ふことであります。其ビーボデーは彼の一生涯を何に費したかと云ふと、何百萬弗と云ふ高は知つて居りませぬけれども金を溜めて殊に黒奴の教育の爲に使つた。今日亞米利

加に居ります黒奴が多分日本人と同じ位の社交的程度に達して居りますのは、何であるかと云ふに、ソレはビーボデーの如き慈善家の金の結果であると、言はなければなりません。私は金の爲には亞米利加人は大へん弱い、亞米利加人は金の爲には大分侵害されたる民であると云ふとも知つて居ります、けれども亞米利加人の中に金持がありまして彼等が清き目的を以て金を溜めそれを清きことの爲に用ゆると云ふことは亞米利加の今日の盛大を致した大原因であると云ふこと丈は私も解つて歸つて來ました。それで若し我々の中にも實業に從事

する時に斯う云ふ目的を以て金を溜める人が出て來ませぬときには、本當の實業家は我々の中に起りませぬ。爾う云ふ目的を以て實業家が起りませぬならば、彼等は幾ら起つても國の益になりませぬ。唯々僅に憲法發布式のときに、貧乏人に一萬圓……一人に五十錢か六十錢位の頭割を爲したと云ふ樣な、ソンナ慈善は爲ない方が返つて宜いです。三菱の樣な何千萬圓と云ふ樣に金を溜めまして、今日まで……是から三菱は善い事業をするかと信じて居りますけれども……今日まで何をしたか。彼れ自身が大に勢力を得、立派な家を建て、立派

な別莊を建てましたけれども、日本の社會はそれに依つて何を利益したかと云ふと。何一つとして見るべきものはないです。それで基督教信者が立ちまして、基督信徒の實業家が起りまして、金を儲けることは已れの爲に儲けるのではない。神の正しい道に依つて、天地宇宙の正當なる法則に徇つて、富を國家の爲に使うのであると云ふ實業の精神が我々の中に起らんことを私は願ふ。爾う云ふ實業家が今日我國に起らんことは、神學生徒の起らんことよりも私の望む處でございます。今日は神學生徒が基督信者の中に十人あるかと思ふと、實業家は

一人もないです。百人あるかと思ふと實業家は一人もない。或は千人あるかと思ふと、一人居るか居らぬかと云ふ位であります。金を以て神と國とに事へやうと云ふ清き考を持つ青年がない。能く話に聽きまする夫の紀ノ國屋文左衞門が百萬兩溜めて百萬兩使つて見やうなどと云ふ賤しい考を持たないで、百萬兩溜めて百萬兩神の爲に使つて見やうと云ふやうな實業家になりたい。爾う云ふ實業家が欲しい。其百萬兩を國の爲に、社會の爲に遺して逝かうと云ふ希望は實に清い希望だと思ひます。今日私が自身に持ちたい望です。若し自身に出

來るならば爲たい事ですが、不仕合に其方の伎倆は私にはありませぬから、若し諸君の中に其希望がありまする ならば、ドウゾ今の敎役事業とか、敎育事業とかに從事する人達は、「汝の事業は下等の事業なり」などと云ふて、其人を失望させぬ樣に注意してもらいたい。又爾う云ふ希望を持つた人は、神が其人に命じた處の考であると思ふて十分に其事を自づから奬勵されんことを望む。或る亞米利加の金持が「私は汝に此金を讓り渡すけれども、併ながら此中に穢ない錢は一文もない」ふ云ふて小見に遺産を渡したそうですが、私共は爾う云ふ金が欲しいのです。』

それで後世への最大遺物の中で先づ第一に大切のものは何であるかと云ふに、私は金だと云ふた、其金の必要を述べた。併ながら何人も金を溜める力を持つて居らない。私は是は矢張り一つのGenius(天才)ではないかと思ひます。私は殘念ながら此天才を持つて居らぬ。或る人が申しまするに金を溜める天才を持て居る人の耳は大層彭れて下の方に垂れて居るそうですが、私は鏡に向て見ましたが、私の耳は大層縮んで居りますから、其天才は私にはないと見えます(大笑)。私の今まで敎へました生徒の中に非常に此の天才を持つて居るものがある、或

る奴は北海道に一文無しで追拂はれた所が、今は私に十倍もする富を持つて居る。「今に己が貧之になつたら、君は己を助けろ」と云ふて置きました。實に金儲けは矢張り外の職業と同じことに或人の天職である。誰にも金を儲けるとが出來るかと云ふことに就ては、私は疑ひます。それで金儲けの事に就ては少しも考を與へてはならぬ所の人が金を儲けやうと致しまするとは其人は非常に穢(きた)なく見えます。そればかりではない、金は後世への最大遺物の一ッでござりますけれども。遺しやうが悪いと隨分害を爲す。それ故に金をためる力を持つた人ばか

りでなく、金を使ふ力を持つた人が出て來なければならない。かの有名なるグールドのやうに彼は生きて居る間に二千萬弗溜めた。其爲に彼は彼の親友四人までを自殺せしめ、アチラの會社を引倒し、コチラの會社を引倒して三千萬弗溜めた、或人の言に「グールドが一千弗と纏まつた金を慈善の爲に出したとはない」と申しました。彼は死ぬ時に其金を何うしたかと云ふと、唯自分の子供にそれを分け與へて死んだ丈けであります。即ちグールドは金を溜ることを知つて、金を使ふことを知らぬ人であつた。それ故に金を遺物としやうと思ふ人には、金

を溜める力と又其金を使ふ力とがなくてはならぬ。此二つの考のない人は、此二つの考に就て十分に決心しない人が金を溜めるといふことは甚だ危險の事だと思ひます。

扨私の樣に金を溜めることの下手なもの、或は溜めてもそれが使へない人は後世の遺物に何を遺さうか。私は到底金持になる望はない、故に殆んど十年前に其考をば捨てゝ仕舞つた。それで若し金を遺すことが出來ませぬならば、何を遺さうかといふ實際問題が出て來ます。それで私が金よりも宜い遺物は何んであるかと考へて

見ますと、事業です。事業とは、即ち金を使ふことです。金は労力を代表するものでありますから、労力を使つて之を事業に變じ、事業を遺して逝くことが出來る。金を得る力のない人で事業家は澤山あります。金持と事業家は二つ別物のやうに見える。商買する人と金を溜める人とは人物が違ふやふに見えます。大阪に居る人は大層金を使ふことが上手であるが、京都に居る人は金を溜めることが上手である。東京の商人に聞いて見ると、金を持て居る人には商賣は出來ない、金のないものは人の金を使ふて事業をするのであると申します。純粋の事

業家の成功を考て見まするに、決して金ではない。グールドは決して事業家ではない。バンダービルトは決して事業家ではない。バンダービルトは非常に金を作ることが上手でございました。ソシテ彼は他の人の事業を助けた丈であります。有名のカルフォルニヤのスタンホードは、大へん金を儲けることが上手であつた。併しながら其スタンホードに三人の友人がありました。其友人のことは面白い話でございますが、時がないからお話をしませぬけれども、金を儲けた人と、金を使ふ人と、種々あります。それですから金を溜めて金を遺すこと

が出來ないならば、或は神が私に事業を爲す天才を與へて下さつたかも知れませぬ。若し爾うならば私は金を遺すことが出來ませぬとも、事業を遺せば十分滿足します。それで事業を爲すといふことは、美しいことである は勿論です。ドウ云ふ事業が一番誰にも解るかと云ふと、土木的の事業です。私は土木者ではありませぬけれども、土木事業を見ることが非常に好きでございます。一の土木事業を遺すことは、實に我々に取つても快樂であるし、又永遠の喜と富とを後世に遺すことではないかと思ひます。今日も船に乘つて、湖水の向まで往きました。

其南の方に當て水門がある。其水門と云ふは、山の裾をクヾッて居る一の隧道であります。其隧道を通うつて、此湖水の水が沼津の方に落ちまして、二千石乃至三千石の田地を灌漑して居ると云ふことを聞きました。昨日或る友人に會ふて、アノ穴を掘つた話を聞きました。其話を聞いたときに私は實に悦しかつた。アノ穴を掘つた人は今から丁度六百年も前の人であつたらうと云ふことでございますが、誰が掘つたか明らない。唯に是丈けの傳說が遺つて居るのでございます。即ち或る箱根の近所に百姓の兄弟があつて、誠に沈着であつて、其兄

弟が互に相語て言ふに、「我々は此有難き國に生れて來て、何か後世に遺して逝かなければならぬ。それ故に何か我々に出來ることを行らうではないか」と。併し兄なる者は云ふた、「我々の樣な貧乏人で、貧賤者のには何も大事業を遺して逝くことは出來ぬ」と云ふと、弟が兄に向て言ふには、「此山をクリ拔いて湖水の水をとり、水田を興してやつたならば、それが後世への大なる遺物ではないか」と云ふた、兄は「それは非常に面白いとだ。それではお前は上の方から掘れ。己は下の方から掘らう、一生涯掛つても此穴を掘らうじやないか」と云て掘り始めた。それで

ドウ云ふ風にしてやりましたかと云ふと、其頃は測量器械もないから、山の上に印を立つて、兩方から掘つて往つたと見える。それから兄弟が生涯かゝつて何にもせずに……多分自分の職業になる丈けの仕事はしたでござりませう。兄弟して兩方からして、毎年々々掘つて往つた。何十年でござりますか、其年は忘れましたけれども、下の方から掘つて來たものは、湖水の方から掘つて往つた者の四尺上に往つたさうでござります。四尺上に往きましたけれども御承知の通り、水は高うござりますから、矢張り龍吐水の樣に向の方に能く落ちるです、生

涯かつて人が見て居らないときに、後世に事業を遺さうと云ふ所の奇特の心より、二人の兄弟は此大事業をなしました。人が見ても呉れない、褒めても呉れないのに、生涯を費して此穴を掘つたのは、それは今日に至つても、我々を勵ます所の業ではありませぬか。それから今の五ケ村が何千石だかドレ丈け人口があるか忘れましたが、五ケ村が頼朝時代から今日に至るまで年々米を取つて來ました、殊に湖水の流れる所でありますから、旱魃と云ふことを感じたことはございません。實に其兄弟は仕合の人間であつたと思ひます。若し私が何にも出來

ないならば、私は其兄弟に眞似たいと思ひます。是は非常な遺物です。多分今往つて見ましたならば、其穴は長さ多分十町かそこらの穴でありませうが、其頃は煙硝もないダイナマイトもない時でございましたから、アノ穴を掘るとは實に非常なことでございましたらう。

大坂の天保山を切つたのも近頃のことでございます。夫の安治川を切つた人は實に日本に取つては非常な功蹟を爲した人であると思ひます。安治川がある爲に大阪の木津河の流を北の方に取りまして、水を速くして、それが爲に水害の患を取除て仕舞つたばかりでなく、深い

港を拵へて九州四國から來る船を悉くアソコに繫ぐ樣になつたのでございます。又秀吉の時代に切つた吉野川は昔は大坂の裏を流れて居つて、人民を艱ましたのを、堺と佳吉の間に開鑿しまして、それが爲に大和川の水害と云ふものがなくなつて、何十ヶ村といふ村が大坂の城の後ろに出來ました是又非常な事業です。それから有名の越後の阿賀川を切つた事でございます。實にエライ事業でございます。有名の新發田の十萬石、今は日本に於て多分富の中心點であるだらうと云ふ所でございます。是等の大事業を考へて見るときに私の心の中に起る所の考は、若し金を後世に遺すことが出來ぬならば、私は事業を遺したいとの考です。又土木事業ばかりでなく、其他の事業でも、若し我々が精神を籠めて、爲るときは、我々の事業は、丁度金に利息が付き、利息に利息が加はつて來て、段々多く成り來る樣に、一の事業が段々大きく成て、終りには非常なる事業と成ます。事業のことを考へます時に、私は何時でも有名のデビット、リビングストンのことを思ひ出さないことはない。それで諸君の中英語の出來るお方に私は蘇格蘭の教授ブレーキの書いたLife and Letters of David Livingstone と云ふ本を讀んで御覽

なさることを勸めます。私一個人に取つては聖書の外に、私の生涯に大刺撃を與へた本は二つあります。一つはカーライルの「コロンウエル傳」であります。其事に就ては、私は後に御話を致します。それから其次に此ブレーキ氏の書いた「デビッド、リビングストン」と云ふ本です。それでデビッド、リビングストンの一生涯はドウ云ふものであつかと云ふと、私は彼を宗教家或は宣教師と見るよりは、寧ろ大事業家として尊敬せざるを得ません。若し私は金を溜めることが出來なかつたならば、或は又土木事業を起すことが出來ぬならば、私はデビッド、リビング

ストンの様な事業をしたいと思ひます。コノ人は蘇格蘭のグラスゴーの機屋の子でありまして、早い時からして公共事業に非常に注意しました「何處かに私は」……デビッド、リビングストンの考へまするに……「何處にか私は一事業を起して見たい」と云ふ考で、始めは支那に往きたいと云ふ考で有まして。其望を以て英國の傳道會社に訴へて見た所が、支那に遣る必要がないと云つて許されなかつた。遂に亞弗利加に這入つて、三十七年間己れの命を亞弗利加の爲に差出し、始めの中は重もに傳道をして居りました。けれども彼は考へました、亞弗利

加を永遠に救ふには、今日は傳道ではいけない。即ち亞弗利加の内地を探檢して、その地理を明かにし是に貿易を開いて勢力を與へねばいけぬ。サウすれば傳道は商賣の結果として必ず來るに相違ない。そこで彼は傳道を止めまして、探檢家になつたのでございます。彼は亞弗利加を三度縱横に横ぎり、解らなかつた湖水も解り、今迄解らなかつた河の方向も定められ、それが爲に種々の大事業も起て來た。併ながらリビングストンの事業はそれで終らない、スタンレーの探檢となり、ピーテルスの探檢となり、チヤンバーレンの探檢となり、今日の所謂亞弗利加問題にして一つとしてリビングストンの事業に原因せぬものはないでございます。コンゴ自由國、即ち歐米九ケ國が同盟しまして。プロテスタント主義の自由國を亞弗利加の中心に立つに至つたのも矢張りリビングストンの手に依つたものと言はなければなりませぬ。

今日の英國はエライ國である。今日の亞米利加の共和國はエライ國であると申しますが、それは何から始つたかと度々考へて見る。それで私は尊敬する人に就て少しく偏するかも知れませぬが、若し偏して居つたならば

其様に御裁判を願ひます。けれども私の考へまするには、今日の英吉利の大なる譯は、英吉利にピウリタンと云ふ黨派が起つたからであると思ひます。亞米利加に今日の様な共和國の起つた譯は何であるか、英吉利にピウリタンと云ふ黨派が起つた故である。併しながら此世にピウリタンが大事業を遺したと云ひ、遺しつゝあると云ふは、何の譯であるかと云ふと、何でもない。此中にピウリタンの大將が居たからである。夫のオリバー、クロムウエルと云ふ人の事業は、彼が政權を握つたのは僅か五年で有ましたけれ共、彼の事業は彼の死と共に全く終

て仕舞つた様に見えますけれ共、サウではない。コロムウエルの事業は今日の英吉利を作りつゝあるのです。而かのみならず英國がコロムウエルの理想に達するには未だズット未來にあることだらうと思ひます。彼は後世に英國と云ふものを遺した。合衆國と云ふものを遺した。アングロサクソン民族が濠太利亞を從へ、南亞米利加に權力を得て、北亞米利加を支配する様になつたのも彼の遺蹟と言はなければなりませぬ。

第二回

昨晩は後世へ我々が遺して逝くべきものに付て先づ第

一に金の事の話を致し、其次に事業のお話を致しました所で金を溜る天才もなし、又其を使ふ天才もなし、且又事業の天才もなし、又事業をなすための社會の位地も無い時には我々が此世に於て何を致したら宜しからふか。事業を爲すには我々に神から受けた特別の天才がいるばかりで無く、又社會上の位地がいる。我々は或る時はかの人は天才があるのに何故なんにもしないで居るかと云つて人を攻めますけれ共、夫は度々起る酷なる攻方だと思ひます。人は位地を得ますと隨分詰らない者でも大事業を致すもので有ます。位地がありませぬとエ

ライ人でも志を抱いて空しく山間に終つて仕舞つた者も澤山有ます。夫故に事業を以て人を評する事は出來ない事は明かなる事だらうと思ひます。夫故に私に事業の天才もなし、又之を爲すの位地もなし、友達もなし社會の贊成もなかつたならば、私は身を滅して死んで仕舞ひ、世の中に何も殘す事は出來ないかと云ふ問題が起つて來る。それで若し私に金を溜める事が出來ず、又社會は私の事業をする事を許さなければ、私はマダ一つ遺すものを持つて居ます。何んであるかと云ふと。私の思想です。若し此世の中に於て私が私の考へを實

行する事が出來なければ、私は之れを實行する精神を筆と墨とを以て紙の上に遺す事が出來る。或はサウでなくとも其に似た樣な事業がございます、即ち若し私が此世の中に生きて居る間に、事業を爲すことが出來なければ、私は青年を薫陶して私しの思想を若い人に繼いでサウして其の人をして私の事業をなさしめる事が出來る。即ち之を短く云ひますれば著述をすると云ふ事と學生を敎ゆるといふ事であります。著述をする事と敎育の事と二つをこゝで論じたい、併し大分時がかゝりますから只其第一即ち思想を遺すといふ事に付て私の文學的

觀察をお話したいと思ひます。則ち我々の思想を遺すには今の青年に我々の志を繼いで往くも一つの方法でございますけれ共、併なから思想其物丈けを遺して往くには文學に依る外無い。夫で文學といふものゝ要は全くそこにあると思ひます。文學といふものは我々の心に兼々抱いて居るところの思想を後世に傳へる道具に相違ない。夫が文學の實用だと思ひます。それで思想の遺物といふものゝ大なる事は我々は誰も能く知つて居る事であります。思想の此世の中に實行されたものが事業です。我々が此世の中で實行する事が出來ないか

らして、種子丈けを播いて逝かう、「我は恨を抱いて、慷慨を抱いて地下にくだらんとすれ共汝等我の後に來る人々よ折あらば我が思想を實行せよ」と後世へ言ひ遺すのである。夫で其遺物の大いなる事は實に著しいものであります。我々の能く知つて居る通り二千年程前にユダ國の極く詰らない漁夫や或は誠に世の中に知られない人々か新約聖書といふ僅かな書物を書いた。爾うして其小さい本が終に全世界を改めたと云ふとは此處に居る人にはお話する程の事は無い皆御存じであります。又山陽といふ人は勤王論を作つた人であります。先生は

ドウしても日本を復活するには日本をして一團體にしなければならぬ。一團體にするには日本の皇室を尊で夫で德川の封建政治をやめて仕舞つて、夫で今日謂ふ所の王朝の時代にしなければならぬといふ大思想を持て居つた。併なから山陽は其を實行しやうかと思つたけれ共、實行する事が出來なかつた、山陽程の先見の無い人は夫を實行しやうとして戰場の露と消へて仕舞つたに相違ない。併し山陽はソンナ馬鹿ではなかつた。彼は彼の在世中迚も此事の出來ない事を知て居つたから、自身の志を日本外史に述べた。そこで日本の歴史を述ぶ

るに當ても特別に王室を保護するやうには書かなかつた。外家の歴史を書て其中にハッキリと云はずとも只勤王家の精神を以て源平以來の外家の歴史を書いて我々に遺して呉れた。今日の王政復古を持來した原動力は何であつたかと云へば多くの歴史家が云ふ通り山陽の日本外史が其一でありし事は能く分て居る。山陽は其思想を遺して日本を復活さした。今日の王政復古前後の歴史を悉く調べて見ると山陽の功の非常に多い事が分る。私は山陽の外のとは知りませぬ。かの人の私行に付ては二つ三つ不同意な所があります。彼の國體

論や兵制論に付ては不同意であります。併ながら彼れ山陽の一つの Ambition（アムビション）即ち「我は今世に望む所は無いけれども來世の人に大に望むところがある」と云つた彼の慾望は私が實に彼を尊敬して已まざるところであります。乃ち山陽は日本外史を遺物として死んで仕舞て、骨は洛陽東山に葬つてありますけれ共、日本外史から新日本國は生れて來ました。

英吉利に今からして二百年前に痩ッこけて丈（せい）の低い始終病身な一人の學者が居つた。夫で此人は世の中の人に知られないで、何も用の無い者と思はれて、始終貧乏して

裏店の樣なところに住つて、かの人は何をするかと人に云はれる位世の中に知れない人で、何も出來ないやうな人であつたが、併し彼は一つの大思想を持つて居た人でありました、其思想と云ふは人間といふものは非常な價値のあるものである、又一箇人といふものは國家よりも大切なものであるといふ大思想を持つて居た人であります。夫で十七世紀の中頃に於ては其說は社會に全く容れられなかつた。その時分には歐羅巴では主義は國家主義と定まつて居つた。伊太利なり、英吉利なり、佛蘭西なり、獨逸なり、皆國家的精神を養はなければならぬとて、

社會は擧て國家といふ團體に思想を傾けて居つた時でございました。其の時に當てドノやうな權力のある人であらう共、彼の信するところの箇人は國家より大切であるといふ考を世の中に幾ら發表しても、實行の出來ない事は解り切て居つた。そこで此學者は私かに裏店に引込んで本を書いた。この人は御存じでありませうジョン、ロックであります。其本は "Essay on Human Understanding" であります。然るに此本は佛蘭西に往きまして、ルウソーが讀んだ、モンテスキユーが讀んだ、ミラボーが讀んだ、サウして其思想が佛蘭西全國に行渉つて遂に

千七百九十年佛蘭西の大革命が起て來まして、佛蘭西の二千八百萬の國民を動かした。夫が爲に歐羅巴中が動き出して此十九世紀の始に於てもジョン、ロックの著書で歐羅巴が動いた。夫から合衆國が生れた。夫から佛蘭西の共和國が生れて來た。夫れから匈牙利の改革があつた、夫から伊太利の獨立があつた、實にジョン、ロックが歐羅巴の改革に及ぼした影響は非常であります。其結果を日本で御互が感じて居る、我々の願ひは何であるか個人の權力を增さうといふのではないか。我々は此事を何處まで實行することが出來るか其はまだ問題でご

ざいますけれ共、何しろ是が我々の願ひであります。勿論ジョン、ロック以前にもサウ云ふ思想を持つた人はあつた、併ながらジョン、ロックは其思想を形に顯して Essay on Human Understanding といふ本を書いて死んで仕舞つた。併し彼の思想は今日我々の中に働いて居る。ジョン、ロックは身體も弱いし、社會の位地も極く低くあつたけれ共、彼は實に今日の歐羅巴を支配する人となつたと思ひます。

夫故に思想をのこすといふことは大事業であります。若し我々が事業をのこすことが出來ぬならば、思想をのこし

てサウして將來に至つて我々の事業を爲すとが出來ると思ふ。そこで私は此處で御注意を申して置かねばならぬとがある。我々の中に文學者といふ奴がある、誰でも筆を把つてサウして雜誌か何かに批評でも載すれば、夫が文學者だと思ふ人がある。夫で文學といふものは惰け書生の一つの玩具になつて居る。誰でも文學は出來る。夫で日本人の考に文學といふものは誠に氣樂なものゝ樣に思はれて居る。山に引込んで文筆に從事する抔は實に羨しい事の樣に考へられて居る。福地源一郎君が不忍の池の邊に別莊を建つて日蓮上人の脚本を書

いて居る。夫を他から見ると大層風流に見える。又日本人が文學者といふ者の生涯はドウ云ふ生涯であるだらうと思ふて居ろかと云ふに、それは繪艸紙屋へ行て見ると分る。ドウ云ふ繪があるかといふと、赤く塗つてある御堂の中に美しい女が机の前に坐つて居つて向ふから月の上つて來るのを筆を翳して眺めて居る。是は何であるかといふと紫式部の源氏の間である。是が日本流の文學者である。然し文學と云ふものはコンナものであるならば文學は後世への遺物でもなくして返て後世への害物である。成程源氏物語といふ本は美しい言葉を

日本に傳へたものであるかも知れませぬ。併し源氏物語が日本の士氣を皷舞するとの爲めに何をしたか。何もしないばかりでなく我々を女らしき意氣地なしにした。アノ樣な文學は我々の中から根コソギに絶やしたい(拍手)、アノ樣なものが文學ならば實に我々はカーライルと共に文學といふものには一度も手を附けたとかないといふことを世界に向て誇りたい。文學はソンナものでは無い。文學は我々が此世界に戰爭する時の道具である、今日戰爭するとは出來ないから未來に於て戰爭しやうといふのが文學であります。夫故に文學者が机

の前に立ちます時には即ちルーテルがウオルムスの會議に立つた時、ポウロがアグリッパ王の前に立つた時、クロムウエルが劍を拔いてダンバーの戰場に臨んだ時と同じことであります。此社會、此國を改良しやう、此世界の敵なる惡魔を平げやうとの目的を以て戰爭をするのであります。ルーテルが牢の中に入つて何にか書いて居つたときに、惡魔が出て來た故に、ルーテルは黑壺(インクスタンド)を取てそれにぶッつけたと云ふ話がある。歷史家に聞くと之は本當の話ではないと云います、併しながら是が文學です、我々は外のことで事葉をするとが出來ないから、インク

スタンドを取て悪魔にぶッつけてやるのである。事業を今日爲さんとするのでは無い。將來、未來、までに我々の戰爭を續ける考から事業を筆と紙とにのこして、サウして此世を終らうと云ふのが文學者の持つて居るAmbition（アムビション）であります。夫で其贈物、我々が我々の思想を筆と紙とにのこして之を將來に贈るとが實に文學者の事業でありまして、若し神が我々に此事を許しますならば、我々は感謝して其贈物をのこしたいと思ふ。有名なるウォルフ將軍がキーベッキの市を取る時にグレーのElegyを歌ひながら言つた言葉があります、即ち「此キーベッキを

取るよりも我は寧ろ此Elegyを書かん」と。勿論Elegyは過激なる所謂ルーテル的の文章ではない。併ながら是が英吉利人の心、ウォルフ將軍のやうな心をドレ丈け慰めたか、實に今日までの英吉利人の勇氣をドレ丈け勵げましたか知れない。トーマス、グレーと云ふ人は有名なる學者で有つて、彼の時代の人で彼位ひ總ての學問に達して居た人は殆と無かつたさうであります。英吉利の文學者中で博學、多才と云つたならば多分トーマス、グレーで有つたらうといふ批評であります。併ながらトーマス、グレーは何を遺したか。彼の書いた本は一つに集めた

らば多分コンナ位(手眞似にて)の本で殆と二百ページか、三百ページもありませう。然し其中是ぞといふて大作はありませぬ。トーマス、グレーの後世への遺物は何も無い、只Elegyといふ三百行ばかりの詩でありました。グレーの四十八年の生涯といふものはElegyを書いて終つて仕舞つたのです。併ながら多分英吉利の國民の續く間は、英吉利の國語が話されて居る間は、Elegyは消えないでせう。此詩程多くの人を慰め、殊に多くの貧乏人を慰め、世の中に全く容れられない人を慰め、多くの志を抱いてそれを世の中に發表することの出來ない者を慰めたものはない。此詩に依つてグレーは萬世を慰めつゝある。我々は實にグレーの運命を羨むであります。總ての學問を四十八年間も積んだ人が只三百行位の詩をのこして死んだといふては少さい樣でございますが、實にグレーは大事業を爲した人であると思ひます。有名なるヘンリー、ビーチヤーが云つた言葉に……私は是は決してビーチヤーが小さい事を針小棒大にして言ふた言葉では無いと思ひます……『私は六十年か七十年の生涯を私のやうに送りしよりも寧ろジョン、ウェスレーの書いた"Jesus lover of my soul"の讃美歌一篇を作つた方が宜ひ』と申しま

した。チョット考へて見ると是は只ジョン、ウエスレーを尊敬するの余りに發したる言葉であつて、決してビーチャーの心の中から出た言葉では無いやうに思はれますけれ共、併ながらウエスレーの此歌を私共は幾度か繰返して歌つて見まして、ドレ丈の心情、ドレ丈の趣味ドレ丈の希望が其内にあるかを見る時には、或はビーチャーの云つた事が本當であるかも知れないと思ひます。ビーチャーの大事業も決してこの一つの讃美歌程の事業を爲して居ないかも知れませぬ。夫故に若し我々に思想があります。するならば、若し我々が夫れを直接に實行する事が

出來ないならば、夫れを紙に寫しまして是を後來にのこします事は、大事業では無いかと思ひます。文學者の事業といふものは夫故に羨むべき事業である。斯う云ふ事業ならば或は我々も夫れを行つて見たいと思ふ。斯う申しますると諸君の中に又斯う云ふ人があります。『ドウモ併なから文學抔は私共には迚も出來ない。ドウモ私は今まで筆を執つた事がない。又私は學問が少い。迚も私は文學者になる事は出來ない』。夫で源氏物語を見て迚もこう云ふ流暢なる文は書けないと思ひ、マコーレーの文を見て迚ても之を學ぶ事は出來ぬと考へ、山陽

の文を見て、迚も斯ふ云ふものは書けないと思ひ、ドウしても私は文學者になる事は出來ないと云つて失望する人がある。文學者は特別の天職を持つた人で有つて文學は迚も我々平凡の人間に出來るとではないと思ふ人があります。其失望は何處から起つたかといふと、前にお話した柔弱なる考から起たのでございます。乃ち源氏物語的の文學思想から起つた考であります。文學といふものはソンナものでは無い。文學といふものは我々の心の有の儘を云ふものです。ジョン、バンヤンといふ人はチツトモ學問の無い人でありました。若しアノ人

が讀んだ本があるならば、タツタ二つでありました、即ちバイブルとフオックスの書いたブックス、オフ、マーター(Books of Martyrs)といふ此二つでした。今ならば此やうな本を讀む忍耐力のある人は無い。我々は札幌で其れを讀んだ事がある、十ページ位讀むと後は讀む勇氣が無くなる本である。殊にクエーカーの書いた本でありますから文法上の誤謬が澤山ある。然るにバンヤンは始から終まで此本を讀んだ。彼れは申しました「私はプラトーの本もアリストートルの本も讀んだとはない、只イエス、キリストの恩惠に預つた憐れなる罪人であるか

ら、只我思ふ其儘を書くのである」と云つて、Pilgrim's Progress（天路歴程）といふ有名なる本を書いた。それで多分英吉利文學の批評家中で第一番といふ人……此間死んだ佛人テーヌといふ人でありますが……其人がバンヤンの此著書を評して何と云つたかといふと「多分純粹といふ點から英語を論じた時にはジョン、バンヤンのPilgrim's Progressに及ぶ文章はあるまい。是は全く外からの雜りの無い、最も純粹なる英語であるだらふ」と申しました。爾うして斯くも有名なる本は何であるかといふと無學者の書いた本であります。夫で若し我々にジョン、バンヤンの精神がありますならば、卽ち吾々が他人から聞いた詰らない說を傳へるでなく、自分の拵つた神學說を傳へるでなくして、私は斯う感じた、私は斯う苦んだ、私は斯う喜んだといふことを書くならば、世間の人はドレ丈け喜んで之を讀むか知れませぬ。今の人が讀むのみならず、後世の人も實に喜んで讀みます、バンヤンは實に「眞面目なる宗敎家」であります。心の實檢を眞面目に著はしたものが英國第一等の文學であります、夫だによつて吾々の中に文學者になりたいと思ふ觀念を持つ人がありまするならばバンヤンのやうな心を持たなくてはなりま

せん、彼のやうな心を持つたならば、實に文學者になれぬ人はないと思ひます。』今此處に丹羽さんが居ませぬから少し丹羽さんの悪口を云ひましせう(笑聲起る)……後で吩附(いつけ)てはイケマセンよ(大笑)、丹羽さんが青年會に於て「基督教青年」といふ雜誌を出した、夫でアノ雜誌を何でも私のとこへ大分送つて來た。そこで私が先日東京へ出ました時に、先生が『ドウです内村君あなたは「基督教青年」をドウお考へなさいますか』と問はれたから、私は眞面目に又明白に答へた『失禮ながら「基督青年」は私の所へ來ますと私は直ぐそれを厠(かはや)へ持つて往つて置いて來ます』。所が先生大變怒つた。夫から私は其譯(わけ)を云つたです。アノ「基督教青年」を私が汚穢(をくわい)い用にもちいるのは何であるかといふに實に詰らぬ雜誌であるからです。何故に詰らないかといふに、アノ雜誌の中に名論卓説が無いから詰らないといふたのではありません。アノ雜誌の詰らない譯は、青年が青年らしく無いことを書くからです。青年が學者の眞似をして、詰らない議論をアッチからも引き拔き、コッチからも引い拔いて、夫を鋏刀(はさみ)と糊(のり)でくッつけた樣な論文を出すから讀まないのです。若し青年が青年の心の儘を書いて呉れたならば、私は是を

大切にして年の終りになつたら立派に表裝して、私の日記Diaryの中の最も價値ある者として遺して置きませうと申しました。夫から其雜誌は大分改良になつた樣であります。夫です、私は名論卓說を聽きたいでは無い。私の欲するところは、女よりは女の云ふ樣なことを聽きたい、男よりは男の云ふ樣なことを聽きたい、青年よりは青年の思つて居る通りのことを聽きたい、老人よりは老人の思つて居る通りのことを聽きたい。夫が文學です。夫故に只吾々の心の儘を表白して御覽なさい。サウして行けば幾ら文法は間違つて居つても、世の

中の人が讀んで喜ぶる。其が我々の遺物です。若し何もすることが出來なければ、我々は我々の思ふ儘を書けば宜いのです』。私は高知から來た一人の下女を持つて居ます。非常に面白い下女で私の所に參りましてから、色々の世話を致します。或時は殆ど私の母の樣に私の世話をして喜れます。其女が手紙を書くのを側で見て居ますと非常な手紙です。筆を横に取つて假名で、土佐言葉で書く。今あとで阪本さんが出で土佐言葉の標本を諸君に示すかも知れません(大笑拍手)。隨分面白い言葉であります。假名で書くのですから、土佐言葉がズツク

大切にして年の終りになつたら立派に表裝して、私の書library の中の最も價値ある者として遺して置きませうと申しました。夫から其雜誌は大分改良になつた樣であります。夫です、私は名論卓說を聽きたいでは無い。私の欲するところと社會の欲するところは、女よりは女の云ふ樣なことを聽きたい、男よりは男の云ふ樣なことを聽きたい、青年よりは青年の思つて居る通りのことを聽きたい、老人よりは老人の思つて居る通りのことを聽きたい。夫が文學です。夫故に只吾々の心の儘を表白して御覽なさい。ザウして行けば幾ら文法は間違つて居つても、世の

中の人が讀んで喜れる。其が我々の遺物です。若し何もすることが出來なければ、我々は我々の思ふ儘を書けば宜いのです』。私は高知から來た一人の下女を持つて居ます。非常に面白い下女で私の所に參りましてから、色々の世話を致します。或時は殆ど私の母の樣に私の世話をして呉れます。其女が手紙を書くのを側で見て居ますと非常な手紙です。筆を横に取つて假名で、土佐言葉で書く。今あとで阪本さんが出て土佐言葉の標本を諸君に示すかも知れませぬ(大笑拍手)。隨分面白い言葉であります。假名で書くのですから、土佐言葉がソック

り其儘で出て來る。夫で彼女は長い手紙を書きます、實に讀むのに骨が折れる。併ながら私は何時でも其を見て喜びます。其女は信者でも何でも無い。毎月三日月樣になりますと私の所へ參つて「ドウゾ旦那さまお錢を六厘」と云ふ、「何に使ふか」といふと、默つて居る。「何でも宜いから」といふ。やると豆腐を買つて來まして、三日月樣に豆腐を供へる。後で聞いて見ると「旦那樣の爲に三日月樣に祈つて置かぬと運が惡い」と申します。私は感謝して何時でも六厘差出します(大笑)。夫から七夕樣が來ますと何時でも私の爲に七夕樣に團子だの梨だの柿抔

を供へます。私は何時も其を喜んで供へさせます。其女が書いて呉れる手紙は、私は實に多くの立派な學者先生の文學を六合雜誌などに拜見するよりも喜んで見ます。其れが本當の文學で、夫が私の心情に訴へる文學。……文學とは何でも無い、我々の心情に訴へるものであります。文學といふものはサウ云ふものであるならば……サウ云ものでなくてはならぬ……夫ならば我々はならうと思へば文學者になることが出來ます。我々の文學者になれないのは筆が執れないからなれないのでは無い、我々に漢文が書けないから文學者になれないので

も無い。我々の心に鬱勃たる思想が籠つて居つて、我々が心の儘をジョン、バンヤンがやつた樣に綴ることが出來るならば、夫が第一等の立派な文學であります。カーライルの云つた通り「何でも宜いから深い所へ入れ深い所には悉く音樂がある」。實にあなた方の心情を有の儘に書いて御覽なさい、夫れが流暢なる立派な文學であります。私自身の經驗に依ても私は文天祥がドウ書いたか、白樂天がドウ書いたかと思つて色々調べて然る後に書いた文よりも、身分か心の有の儘に、假名の間違があらうか、文法に合ふまいか構はないで書いた文の方が私が見

ても一番宜い文章であつて、外の人が評しても又一番宜い文章であると云ひます。文學者の秘訣はそこにあります。斯ふ云ふ文學ならは我々誰でも遺す事が出來る。夫故に難有いとでございます。若し我々が事業をのこすとが出來なければ、我々に神樣が言葉と云ふものを下さいましたからして、我々人間に文學と云ふものを下さいましたから、我々は文學を以て我々の考を後世にのこして逝くとが出來ます。

サウ申しますと又斯ふ云ふ問題が出て來ます。我々は金をためる事が出來ず。又事業を爲す事が出來ない。

夫れから又そんならばと云つてあなた方が皆文學者になつたならば、多分活版屋では喜ぶかも知れませぬけれども、社會では喜ばない。文學者の世の中に殖へると云ふことは、只活版屋と紙製造所を喜ばす丈けで、餘り社會に益を爲さないかも知れない。故に若し我々が文學者となる事が出來ず、又なる考もなし、バンヤンの樣な思想を持つて居つても、バンヤンの樣に綴ることが出來ない時には、別に後世への遺物は無いかと云ふ問題が起る。其れは私にも度々起つた問題であります。成程文學者になることは私が前に述ました通りヤサシイ事とは思ひます

けれども、併し誰でも文學者になると云ふことは實に望むべからざることであります。例へば學校の先生……或人が云ふやうに何でも大學に入つて學士の名號を取り、或は其上に亞米利加へでも往つて學校を卒業さへして來れば、夫で先生になれると思ふのと同じことであります。私は度々聞いて感じまして、今でも心に留めて居ります

が、私が大へん世話になりましたアモウスト大學の敎頭シーリー先生が云つた言葉に「此學校で沸ふ丈けの給金を拂へば學者を得ることは幾らでも得られる、地質學を研究する人、動物學を研究する人は幾らもある、地質學者、動

物學者は澤山居る、併しながら地質學、動物學を敎へるとの出來る人は實に少ない。文學者は澤山居る、文學を敎へるとの出來る人は少い。夫故に此學校に三四十人の敎授が居るけれ共、其三四十人の敎師は非常に貴い。何故なれば此等の人は學問を自分で知つて居るばかりでなく、其を敎へる事の出來る人であります」と。是は我々が深く考ふべきとで、我々が學校さへ卒業すれば必ず先生になれるといふ考を持つてはならぬ。學校の先生になるといふことは一種特別の天職だと私は思つて居ります。好い先生といふものは必ずしも大學者では無い。

大島君も御承知でございますが、私共が札幌に居りました時に、クラーク先生といふ人が敎師であつて、植物學を受持つて居りました。其時分には外に植物學者が居りませぬから、クラーク先生を第一等の植物學者だと思つて居りました。此先生の云つた事は植物學上誤りの無い事だと思つて居りました。併ながら彼の本國に行つて聞たら、先生大分化の皮を現はした。かの國の或る學者がクラークが植物學に付て口を利く抔とは不思議だと云つて笑つて居りました。併ながら兎に角先生は非常な力を持て居つた人でした。何う云ふ力であつたか

と云ふに、卽ち植物學を青年の頭の中へ注き込んで植物學といふ學問のInterestを起す力を持つた人でありました。夫故に植物學の先生としては非常に價値のあつた人でありました。故に學問さへすれば我々が先生になれるといふ考を我々は持つべきで無い。我々に思想さへあれば、我々が悉く先生になれるといふ考を拋却して仕舞はねばならぬ。先生になる人は學問が出來るよりも、學問はなくてはなりませぬけれ共、學問が出來るよりも學問を青年に傳へる事の出來る人でなければならない。之を傳へる事は一つの技術であります、短い言葉であり

ますけれ共、此中に非常の意味が含まつて居ります。假令我々が文學者になりたい、學校の先生になりたいといふ望があつても是れ必ずしも誰にも出來るものでは無いと思います。

夫で金も遺す事が出來ず、事業も遺す事が出來ない人は必ずしも文學者又は學校先生となつて思想をのこして逝く事が出來るかと云ふに、夫はサウは往かぬ。併ながら文學と教育とは工業をなすといふ事、金をためるといふことよりか餘程やさしい事だと思ひます。何故なれば獨立で出來る事であるからです、殊に文學は獨立的の

事業である。今日のやうな學校にては何處の學校にても、Mission School（ミッションスクール）を始めとして何處の官立學校にても、我々の思想を傳へると云つても實際傳へる事は出來ない。夫故學校事業は獨立事業としては隨分難い事業であります。併ながら文學事業に至つては社會は殆んど我々の自由に任せる。夫故に多くの獨立を望む人が政治界を去て宗教界に入り、宗教界を去つて教育界に入り、又教育界を去つて遂に文學界に入つた事は明かな事實であります。多くのエライ人は文學に逃げ込みました。文學は獨立の思想を維持する人の爲に最も便益なる隱れ

場所であろと思ひます。併ながら只今も申上ました通り必ずしも誰にでも入る事の出來る道ではない。

茲に至つて斯う云ふ疑問が出て來る。文學者にもなれず、學校の先生にもなれなかつたならば、夫ならば私は後世に何をものこす事は出來ないかといふ疑問が出て來る。何か外に事業は無いか。私も度々夫が爲に失望に陷ることがある。然らば私には何にも遺すものはない。事業家にもなれず、金を溜ることも出來ず、本を書くことも出來ず、物を敎へることも出來ない。サウすれば私は無用の人間として、平凡の人間として消えて仕舞はなけれ

ばならぬか、陸放翁の云つた如く「我死骨卽朽、青史亦無名」と嘆じ、此悲嘆の聲を發して我々が生涯を終るのでは無いかと思ふて失望の極に陷る事がある、然れども私は夫よりモット大きい、今度は前の三つと違ひまして誰にも遺す事の出來る最大遺物があると思ふ。夫は實に最大遺物であります。金も實に一つの遺物でありますけれ、共、私は之を最大遺物と名づける事は出來ない。事業も實に大遺物たるには相違ない、殆ど最大遺物と云ふても宜うございますけれ共、未之を本當の最大遺物と云ふ事は出來ない。文學も先刻お話した通り實に貴いもので

あつて、我の思想を書いた物は實に後世への價値ある遺物と思ひますけれ共、私は之を以て最大遺物といふ事は出來ない。最大遺物といふ事の出來ない譯は一つは誰にも遺す事の出來ない遺物であるから最大遺物といふとは出來ないのでは無いかと思ふ。夫ればかりで無く其結果は必ずしも害のない結果ではない。昨日もお話した通り金は用ひ方によつて大へん利益がありますけれ共、用ひ方が惡いと又大へん害を來すものである、事業に於るも同じことであります。クロムウエルの事業とか、リビングストンの事業は大へん利益があります代りに

亦之には害が一緒に伴ふて居ります。又本を書くことも同しやうに其中に善い事もあり亦悪い事も澤山あります。我々は夫を全完なる遺物又は最大遺物と名つけるとは出來ないと思ひます。

それならば最大遺物とは何であるか。私が考へて見ますに人間が後世にのこす事の出來るサウして是は誰にも遺す事の出來るところの遺物で利益ばかりあつて害のない遺物がある。夫は何であるかならば勇ましい高尚なる生涯であると思ひます。是が本當の遺物ではないかと思ふ。他の遺物は誰にものこす事の出來る遺物

ではないと思ひます。而して高尚なる勇ましい生涯とは何であるかといふと、私がこゝで申す迄もなく、諸君も我々も前から承知して居る生涯であります。即ち此世の中は是は決して悪魔が支配する世の中にあらずして、神が支配する世の中であると云ふ事を信する事である。失望の世の中にあらずして、希望の世の中であることを信ずる事である。此世の中は悲歎の世の中でなくして、歡喜の世の中であるといふ考を我々の生涯に實行して其生涯を世の中の贈物として此世を去るといふことであります。其遺物は誰にも遺もとの出來る遺物ではな

いかと思ふ。若し今までのエライ人の事業を我々が考へて見ます時に、或はエライ文學者の事業を考へて見ます時に、其人の書いた本、其人の遺した事業はエライものでございますが、併し其人の生涯に較べた時には實に小さい遺物だらうと思ひます。ポウロの書翰は實に有益な書翰で有ますけれ共、併し是をポウロの生涯に較べた時には價値の甚だ少い者ではないかと思ふ。ポウロ彼自身は此ポウロの書いた羅馬書や、ガラテヤ人に贈つた書翰よりもエライ者で有と思ひます。クロムウエルがアングロサクソン民族の王國を造つた事は大事業であり

ますけれ共、クロムウエルがアノ時代に立つて自分の獨立思想を實行し、神に倚つてアノ勇壯なる生涯を送たと云ふ、アノクロムウエル彼自身の生涯と云ふ者は是はクロムウエルの事業に十倍も百倍もする社會に取つての遺遺物ではないかと考へます。私は元來トーマス、カーライルの本を非常に敬讀する者であります。夫で或人には夫が爲に嫌はれますけれ共、私はカアライルと云ふ人に付ては全體非常に尊敬を表して居ります。度々アノ人の本を讀んで利益を得、又其れに依て刺激をも受けたことでございます。けれ共、私はトーマス、カーライルの書

いた四十冊ばかりの本を皆寄せて見てカーライル彼自身の生涯に較べた時にはカーライルの書いた者は實に價値の少い者であると思ひます、先日カアライルの傳を讀んで感じました。御承知の通りカーライルが書いた者の中で一番有名なものは佛蘭西革命の歴史でございます。夫で或る歴史家が云ふたに「英吉利人の書いたもので歴史的の叙事、物を說き明した文體から云へばカーライルの佛國改革命史が多分一番と云つても宜いであらう。若し一番でなければ一番の中に入るべきものである」といふことであります。夫で此本を讀む人は悉く同じ感覺

を持つだらうと思ひます。實に今より百年ばかり前のことを我々の目の前に活きて居る畫の樣に、サウして立派な畫人が書いてもアノ樣には書けぬといふ樣に、佛蘭西革命のパノラマ(活畫)を示して呉れた者は此本であります。夫で我々は其本に非常の價値を置きます。カーライルが我々にのこして呉れた此本は實に我々の貴ぶところで御座います。併ながら佛蘭西の革命を書いたカーライルの生涯の實驗を見ますと、此本よりかまだ立派なものがあります。其話は長いけれ共茲にあなた方に話す事を許して戴きたい。カーライルが此書を著は

ずのは彼に取ては殆ど一生涯の仕事であつた。チヨツト『革命史』を見まするならば、此位の本は誰にでも書けるだらうと思ふ程の本であります。けれ共歴史的の研究を凝してサウして廣く材料を集めて成つた本で有まして實にカーライルが生涯の血を絞つて書いた本であります。夫で何十年ですか忘れましたが、何十年かかゝつて漸く自分の望みの通りの本が書けた、夫からして其本が原稿になつて之を野紙に書いて仕舞つた。夫からして是はモウ直きに出版する時が來るだらうと思つて待つて居つた。其時に友人が來ましてカーライルに遇

つたところがカーライルが其話をしたら「實に結構な書物だ今晩一讀を許して貰ひたい」と云つた、其時にカーライルは自分の書いたものは詰らないものだと思つて、人の批評を仰ぎたいと思つたから、貸してやつた。貸してやると其友人は之を家へ持つて往つた。サウすると友人の友人がやつて來て、之れを手に取つて讀んで見て、「是は面白い本だ、一つドウゾ今晩私に讀まして呉れ」と云つた。ソコで友人が云ふには「明日の朝早く持つて來い。サウすれば貸してやる」と云つて貸してやつたら、其人は又之を其家へ持つて行つて一生懸命に讀んで、曉方まで

讀んだ所が、あしたの事業に妨げがあるといふので、其本をば机の上に抛り放しにして床に就いて自分は寢入つて仕舞つた。サウすると翌朝彼の起きない前に下女がやつて來て、家の主人が起きる前にストーブに火をたき附けやうと思つて、御承知の通り西洋では紙をコッパの代りに用いてクべますから、何か好い反故は無いかと思つて調べた所が机の前に書いたものが大分ひろがつて居たから、是は好いものと思つて、其を皆丸めてストーブの中へ入れて火を附けて燒いて仕舞つた。カーライルの二十年程かゝつた『革命史』を燒いて仕舞つた、時計の三

分か四分の間に煙となつて仕舞つた。夫で友人が此事を聞いて非常に驚いた。何とも云ふ事が出來ない。外のものであるならば、紙幣を燒いたならば紙幣を償ふ事が出來る、家を燒いたならば家を建てゝやる事も出來る、併しながら思想の凝つて成つたもの、熱血を注いで何十年かゝつて書いた者を燒いて仕舞つたのは償ひ樣が無い。死んだ者はモウ活き歸らない、夫が爲に腹を切つたところが夫れまでゞあります。夫で友人に話したところが、友人も實にドウする事も出來ないで一週間默つて居つた。何と云つて宜いか解らぬ。ドウモ仕方が無い

から、其事を、カーライルに云つた。其時にカーライルは十日ばかりボンヤリとして何もしなかつたといふ事であります。流石のカーライルもサウであつたらうと思ひます。夫で腹が立つた。隨分短氣の人でありましたから、非常に腹を立てた、彼は其時は歴史抔は投リッぽかして何にもならない詰らない小説を讀んだそうです。併しながら其間に已で已に歸つて云ふに「トーマス、カーライルよ汝は愚人である。汝の書いた『革命史』はソンナに貴い者では無い。第一に貴いのは汝が此難難に忍んでサウして再び筆を執つて其れを書き直す事である、其

が汝の本當にエライ所である。實に其事に付て失望する樣な人間が書いた『革命史』を社會に出しても役に立たぬ。夫故にモウ一度書き直せ」と云つて自分で自分を皷舞して、再び筆を把つて書いた。其話は夫丈けの話です併し我々は其時のカーライルの心中に這入つた時には實に推察の情溢るゝばかりであります。カーライルのエライ事は『革命史』といふ本の爲めにではなくして、火にて燒かれたものを再び書き直したといふ事である。若し或は其本がのこつて居らずとも、彼は實に後世への非常の遺物をのこしたのであります。假令我々がイクラ

やりそこなッてもイクラ、不運にあつても、其時に力を回復して我々の事業を捨てゝはならぬ。勇氣を起して再び其に取掛らなければならぬといふ心を起して吳れた事に付て

カーライルは非常な遺物をのこして吳れた人では無いか。』

此節の弊害は何であるかと云ひますれば、成程我々の國に金がない、我々の國に事業が少い、我々の國に宜い本が無い、其は確かです。併ながら日本人お互に今要するものは何であるか。本が足ないのでせうか。金のないのでせうか、或は事業が不足なのでありませうか。夫等の事の不足も固よりない事はございませぬ。けれ共、私が

考へて見ると今日第一の缺乏はLife生命の缺乏であります。夫で此節は頻りに學問と云ふ事、教育と云ふ事、即ちCulture(修養)と事ふ事が大へんに我々を動かします。我々はドウしても學問をしなければならぬ、ドウしても我々は青年に學問をつぎ込まねばならぬ、教育をのこして後世の人を誡しめ、後世の人を教へねばならぬと云ふて我々は心配致します、勿論此事は大へん宜い事であります、夫で若し我々が今より百年後に此世に生れて來たと假定して明治二十七年の人の歴史を讀むとすれば、ドウデせう是を讀んで來て我々に何う云ふ感情が起りま

せう、成程此處にも學校が建つた、此處にも教會が建つた、此處にも青年會館が建つた、ドウして建つたらうと云つて段々讀んで見ますと、此人は亞米利加へ行つて金を貰つて來て、建つた、或は此人は斯う云ふ運動をして建つたといふ事がある。そこで我々が之を讀みます時に「アヽ迚も私にはそんな事は出來ない、今では亞米利加へ行つても金は貰れえまい、又私には其樣に人と共同する力は無い、私にはサウ云ふ眞似は出來ない、私は迚もサウ云ふ事業は出來ない」と云ふて失望しませう。即ち私が今から五十年も百年も後の人間であつたならば、今日の時代

から學校を受繼いだかも知れない、教會を受繼いだかも知れませぬ。けれ共私自身を働かせる原動力をば貰はない。大切なるものをば貰はないに相違ない。併し若しこゝに詰らない教會が一つあるとすれば、そのつまらない教會の建物を賣つて見たところが殆と僅かの金の價値しかないかも知れませぬ。併ながら其教會の建つた歴史を聞いた時に、其歴史が斯う云ふ歴史であつたと假定めて御覽なさい……此教會を建つた人は誠に貧乏人であつた、此教會を建つた人は學問も別にない人であつた、夫だけれ共此の人は己の總ての涙費を節して、總て

の慾情を去つて、丸るで己の力丈けにたよつて、此教會を造つたものである。……斯う云ふ歴史を讀むと私にも勇氣が起つて來る。かの人に出來たならば己にも出來ない事はない、我も一つやつて見やうといふ樣になる。私は近世の日本の英傑、或は世界の英傑と云つても宜い人のお話を致しませう。此世界の英傑の中に丁度我々の留つて居る此箱根山の近所に生れた、人で二宮金次郎といふ人がありました。此人の傳を讀ました時に私は非常な感覺を貰つた、夫でドウも二宮金次郎先生には私は現に負ふ所が實に多い。二宮金次郎氏の事業は余り

日本にひろまつては居らぬ。夫で彼の爲した事業は悉く之を纒めて見ましたならば二十ケ村か三十ケ村の人民を救つた丈けに止まつて居ると考へます。併ながら此人の生涯が私を益し、夫から今日日本の多くの人を益する譯は何であるかといふと、何でもない、此人は事業の贈物に非ずして生涯の贈物を遺した。此人の生涯は既に御承知の方もありませうがチョット申して見ませう。二宮金次郎氏は十四の時に父を失ひ、十六の時に母を失ひ、家が貧乏にして何物もなく、爲めに極く殘酷な伯父に預けられた人であります。夫で一文の錢もなし家産は

悉く傾き、弟一人妹一人持つて居つた。身に一文もなくして孤兒です。其人がドウして生涯を立てたか。伯父さんの家に在てその手傳をして居る間に、本が讀みたくなつた。サウしたときに本を讀んで居つたら、伯父さんに叱られた。此の高い油を使つて本を讀む抔と云ふ事は誠に馬鹿〳〵しい事だと云つて讀ませぬ。サウすると、默つて居つて、伯父さんの油を使つては悪いと云ふ事を聞きましたから、「夫では私は私しの油の出來るまでは本を讀まぬ」といふ決心をした。夫でドウしたかと云ふと川邊の誰も知らない所へ行きまして、菜種を蒔いた。

一ヶ年かゝつて菜種を五六升も取つた。夫から其菜種を持つて行つて、油屋へ行つて油と取換いて來まして、夫から其油で本を見た。サウしたところが又叱られた。「油ばかりお前のものであれば本を讀んでも宜いと思つては違ふ、お前の時間も私のものだ、本を讀む抔といふ馬鹿な事をするならば宜いから其時間に繩を綯れ」と云はれた。夫から又仕方がない、伯父さんの云ふ事であるから終日働いてあとで本を讀んだ……サウ云ふ苦學をした人であります。ドウして自分の生涯を立たかと云ふに、村の人の遊ぶ時、殊にお祭り日などには近所の畑の中

に洪水で沼になつたところがあつた、其沼地を伯父さんの時間でない、自分の時間に、其沼地より悉く水を引いてそこで以て小さい鍬で田地を拵へて、そこへ持つて行つて稻を植へた。斯うして始て一俵の米を取つた。其人の自傳に據りますれば、「米を一俵取つた時の私の喜びは何とも云へなかつた。是れ天が始て私に直接に授けたものにして其一俵は私に取つては百萬の價値があつた」といふてゐる。夫から其方法を段々續けまして二十歳の時に伯父さんの家を辭した。其時には三四俵の米を持つて居つた。夫から仕上げた人であります。夫で

此人の生涯を始から終まで見ますと、「此宇宙といふものは實に神樣……神樣とは云ひませぬ、……天の造つて下さつたもので天と云ふものは實に恩惠の深いもので、人間を助けやう〳〵とばかり思つて居る。夫だから若し我々が此身を天と地とに委ねて、天の法則に從つて行つたならば、我々は欲せずと雖も天が我々を助けて呉れる」と云ふ斯う云ふ考でであります。其考を持つたばかりでなく、其考を實行した。其話は長うございますけれ共、遂には何萬石といふ村々を改良して自分の身を悉く人の爲に使つた。舊幕の末路に方つて經濟上農業改良上に付て

非常の功勞のあつた人であります。夫で我々もサウ云ふ人の生涯、二宮金次郎先生のやうな人の生涯を見ます時に。「若しアノ人にもアヽ云ふ事が出來たならば、私にも出來ない事はない」と云ふ考を起します、普通の考ではありますけれども非常に價値のある考であります。夫で人にたよらず共我々が神にたより、己にたよつて宇宙の法則に從へば、此世界は我々の望む通りになり、此世界に我の考を行ふ事が出來ると云ふ感覺が起つて來る、二宮金次郎先生の事業は大きくなかつたけれ共、彼の生涯はドレ程の生涯であつたか知れませぬ。私ばかりで無く日本中幾萬の人は此人から「インスピレーション」を得たでありませうと思ひます。あなた方も此人の傳を讀んで御覽なさい。「小年文學」の中に「二宮尊德翁」と云ふのが出て居りますが、アレは詰らない本です、私しのよく讀みましたのは農商務省で出版になりました五百ページばかりの「報德記」といふ本です。此本を諸君が讀まれん事を切に希望します。此本は我々に新理想を與へ、新希望を與へて呉れる本であります。實に基督教のバイブルを讀む樣な考が致します。故に我々が若し事業を遺す事が出來ず共、二宮金次郎的の、卽ち獨立生涯を躬行し

て往つたならば、我々は實に大事業をのこす人ではないかと思ひます。

私は時が長くなりましたからモウ仕舞に致しますが、常に私の生涯に深い感覺を與へる一ッの言葉を皆樣の前に繰返したい。茲に我々の中に一人亞米利加のマッサチユーセットのマウント、ホリーヨーク、セミナリーと云ふ學校へ行つて卒業して來た方が居りますが、此女學校は古い女學校であります。大へん宜い女學校であります。併ながら若し私をして其女學校を評せしむれば今の教育上殊に智育上に取つては私は決して亞米利加第

一等の女學校とは思はない。米國には澤山宜い女學校がございます。スミス女學校といふ樣な大きな學校もあります。又ボストンのウエレスレー學校、ヒラデルヒヤのブリンモーア學校と云ふ樣なものがございます。けれ共マウント、ホリーヨーク、セミナリーと云ふ女學校は非常な勢力を以て、非常な事業を世界に爲した女學校であります。何故だと云ひますと、(其女學校は此節は大分よく揃つたさうでありますが、此間までは不整頓の女學校でありました)。夫が世界を感化するの勢力を持つに至つた原因は、其學校にはユラィ非常な女が居つた。其

人は立派な物理學の機械に優つて、立派な天文臺に優つて、或は立派な學者に優つて、價値のある魂を持つて居つたメリー、ライオンと云ふ女でありました。其生涯を悉く述べる事は今爰では出來ませぬが、此女史が自分の女生徒に遺言した言葉は我々の中の婦女を勵さねばならぬ、又男子をも勵さねばならぬものである。即ち私は其女の生涯を度々考へて見ますに、實に日本の武士の樣な生涯であります。彼女は實に義俠心に充ち滿ちて居つた女であります。彼女は何と云ふたかと云ふに、彼女の女生徒に斯う云ふた、

他の人の行くことを嫌ふところへ行け
他の人の嫌がる事を爲せ

是がマウント、ホリヨーク、セミナリーの立つた土臺石であります。是が世界を感化した力ではないかと思ひます。他の人の嫌がる事を爲し、他の人の嫌がるところへ行くと云ふ精神であります。夫で我々の生涯は其方に向て行きつゝあるか、我々の多くはサウでなくして他の人も爲すから己も爲さうと云ふのではないか、他の人もアゝ云ふ事をするから私もサウしやうと云ふ風ではないか、外の人も亞米利加へ金貰ひに行くから私も行か

う、他の人も壯士になるから私も壯士にならう、甚しきは大分此頃は耶蘇教が世間の評判が好くなつたから私も耶蘇教にならうと、云ふ樣なものがございます。關東に往きますと關西は余り多くないものがある、關東には宜いものが大分澤山あります。關西よりも宜いものがあると思います。關東人は意地といふことを頻りに申します。意地の悪い奴は廻髮が曲つて居ると申しますが、毬栗頭にては直ぐ解る、頭の廻髮がこゝらに(手眞似にて)斯う曲つて居る奴は必らず意地が悪い。人が右へ行かうと云ふと左と云ひ、ァ、しやうと云へば斯うしやうと

云ふ樣な風で、殊に上州人に其が多いと云ひます。(私は上州の人間ではありませぬけれ共)、夫で必ずしも是は譽むべき精神ではないと思ふが、併ながら武士の意地と云ふものです。其意地を我々から取除けて仕舞つたならば、我々は腰拔侍士になつて仕舞ふ。徳川家康のェライ所は澤山ありますけれ共、諸君の御承知の通り彼が子供の時に川原へ行つて見たところが子供の二群が戰さをして居つた。石擊をして居つた。家康は之を見て彼の家來に命して人數の少い方を手傳つてやれと云つた。多い方は宜から少い方へ行つて助けてやれと云つた。

是が德川家康のエライ所であります。それで何時でも正義の爲めに立つ者は少數である、夫で我々の爲すべき事は何時でも少數の正義の方に立つて、サウして其正義の爲に多勢の不義の徒に向つて石擊を行らなければなりません。勿論必すしも負ける方を助けると云ふのではない、私の望むのは少數と共に戰ふの意地です。其精神です、夫は我々の中に皆欲しい。今日我々が正義の味方に立つ時に、我々少數の人が正義の爲に立つときに、少く共此夏期學校に來て居る者位は共に其方に起つて貰ひたい。夫でドウゾ後世の人か我々に就て此人等は力

もなかつた、富もなかつた、學問もなかつた人であつたけれ共、己の一生涯を銘々持つて居つた主義の爲に送つて呉れた」と云はれたいではありません乎。是は誰にもの こすとの出來る生涯ではないかと思ひます。夫で其遺物をのこすとが出來たと思ふと實に我々は嬉しい。假令我々の生涯はドンナ生涯であつても……度々斯う云ふやうな考は起りませぬか。若し私に家族の關係がなかつたならば私にも大事業が出來たであらふ。或は若し私に金が有て大學を卒業し歐米へ行つて智識を磨いて來たならば私にも大事業が出來たであらふ。若し私に

良い友人があつたならば大事業が出來たであらふ。斯う云ふ考は人々に實際起る考であります。然れども種々の不幸に打勝つ事に依つて大事業といふ者が出來る、夫が大事業であります。夫故に我々が此考を以て見ますと、我々に邪魔のあるのは最も愉快な事であります。邪魔があればある程我々の事業が出來る。勇しい生涯と事業を後世にのこす事が出來る兎に角反對があればある程面白い。我々に友達が無い、我々に金が無い、我々に學問が無いといふのが面白い。我々が神の恩惠を享け、我々の信仰によつて此等の不足に打勝つ事が出來れば

我々は非常な事業をのこすものである。我々が熱心を以て之に勝てば勝つ程、後世への遺物が大くなる。若し私に金が澤山あつて、位地があつて、責任が少くして、夫で大事業が出來たところが何でも無い。假令事業は小くても此等の總ての反對に打勝つ事によつて、夫で後世の人が私に依つて大に利益を得るに至るのである。種々の不都合、種々の反對に打勝つ事が我々の大事業では無いかと思ふ。夫故にヤコブの樣に我々の出遭ふ難難に就て我々は感謝すべきでは無いかと思ひます。

誠に私の言葉が錯雜して居つて、且時間も少くございま

すから私の考を悉く述べる事は出來ない。併ながら私は今日是で御免を被つて山を降らうと思ひます。夫で來年又再びどこかで御目にかゝる時までには少くとも幾何の遺物を貯へて置きたい。此一年の後に我々が再び會します時には、我々が何かのこして居つて、今年は後世の爲に是丈の金を溜めたといふのも結構、今年は後世の爲に是丈けの事業を爲したといふのも結構、又私の思想を雜誌の一論文に書いてのこしたと云ふのも結構、然し夫れよりも一層宜いのは後世の爲に私は弱いものを助けてやつた、後世の爲に私は是丈けの難難に打勝つて

見た、後世の爲に私は是たけの品性を修練して見た、後世の爲に私は是丈けの義俠心を實行して見た、後世の爲に私は是丈けの情實に勝つて見たといふ話を持て再びこゝに集りたいと考へます。

日進みましたならば、我々の生涯は決して五十年や六十年の生涯にはあらずして、實に水の邊りに植へたる木の樣なもので、段々と芽を萠き枝を生じて行く者であると思ひます。決して竹に木を接ぎ、木に竹を接ぐ樣な少しも成長しない價値の無い生涯ではないと思ひます。斯う云ふ生涯を送らん事は實に私の最大希望でムいまし

て、私の心を毎日慰め、且つ色々のことを爲すに當て私を勵ます事であります。それで私の尙一つの題の「眞面目ならさる宗敎家」と云ふのは時間がありませぬから玆に述べませぬ。述べませぬけれども併ながら私の精神のある所は皆樣に十分お話し致したと思ひます。己れの信することを實行するものが眞面目なる信者です。唯々壯言大語することは誰にも出來ます。幾ら神學を研究しても、幾ら哲學書を讀みても、我々の信じた主義を眞面目に實行する所の精神がありませぬ間は、神は我々に取て異邦人であります。それ故に我々は神が我々に知らしたことを其儘實行致さなければなりません。斯う致さねばならぬと思ふた事は我々は悉く實行しなければならない。若し我々が正義は終に勝つものにして不義は終に負けるものであると云ふことを世間に發表する者であるならば、其通りに我々は實行しなければならない。これを稱して眞面目なる信徒と申すのです。我々に後世に遺すものは何にもなくとも、我々に後世の人に是ぞと云ふて覺えられるべきものは何にもなくとも、ア人は此世の中に活きて居る間は、眞面目なる生涯を送つた人であると云はれる丈けの事を後世の人に遺した

いと思ひます。(拍手喝采)

第二回

後世への最大遺物 終

定價金拾五錢

明治三十二年十一月廿七日印刷
明治三十二年十二月三十日發行

著者 內村鑑三

發行者 東京府豐多摩郡淀橋町大字角筈百一番地 坂井義三郎

印刷者 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 佐久間衡治

發行所 東京府豐多摩郡淀橋町大字角筈百一番地 東京獨立雜誌社

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 秀英舍第一工場

發賣所 東京市神田區佐柄木町二十一番地 東京獨立雜誌社販賣部

賣捌所 警醒社○東京堂○上田屋○京都、便利堂

◉廣告

内村鑑三主筆

東京獨立雜誌

毎月三回
五の日發行

本誌は政治に文學に道德に教育に宗教に聊か獨特の意見を抱持し高潔なる思想を我國に注入せんとを庶幾す今や號を重ぬる殆んと五十廣く全國に行渉り最も誠實なる讀者を有す更に志士の購讀を待つ

◉本誌定價一部六錢郵税五厘十部以上前金郵税共六錢の割
五十部前金郵税共二圓五十錢見本郵券六錢

東京市神田區佐柄木町廿一番地
東京獨立雜誌販賣部

近刊豫告

獨逸人トーマス、ガスパイ氏著
東京獨立雜誌社補譯（十一月下旬出來の見込）

獨習及教科用

英語大成

定價（上製 五十錢
並製 四拾五錢）

本書の躰は會話文典にして譯讀、作文、會話の三者を一舉にして學得せしむるもの、故に獨習用、教科用又教師參考用として頗る有益の書なり、是れ本社が此書を補譯して新刊する所以なり、請ふ發賣の日を待て購讀せられんことを、

注意 本書購讀者の自修に便せんが爲め質問券を發賣す、質問券を購求せんとする方は一口五十件質問券に付金壹圓五拾錢を當部へ拂込まるすべし

東京獨立雜誌販賣部

再版

外國語之研究

●內村鑑三氏著書目錄

目次●外國語研究の利益●世界の言語に於ける英語の位置●平民的言語としての英語●英語の美●外國語研究の方法●日本語に現はれたる歐羅巴語●博言學と地名●最良の英語讀本●英語自習獨學の注意●西班牙語の研究

外國語研究の精神を皷吹し其方法を示すに於て蓋し我國唯一の書なるべし

定價金貳拾五錢
郵稅金 四 錢
郵券參拾錢にて送る

英和時事會話

定價金拾 八 錢
郵稅金 貳 錢
郵券貳拾錢にて送る

著者の序に曰「世に憤るべき事多し、而して英語は學はざるべからず、是れ此書の成りし所以なり」

◉四版（原詩對照）愛吟

定價金拾五錢
郵稅金貳錢

著者が愛誦する歐米大家の短篇二三十を世に紹介せんとして纂譯したるもの、まゝ奇警の註解を加へたり、人心奥秘の琴線に觸れ清快と慰藉と奬勵とを供する多し、

◉四版 地人論

定價金四拾錢
郵稅金四錢

目次●地理學研究の目的●地理學と歷史。其一山國論。其二平原論。海國論●地理學と攝理●亞細亞總論幷ニ西方亞細亞●歐羅巴論●亞米利加論●東洋論●日本の地理と其天職◉南三大陸

著者が其獨特の眼識を以て地理と歷史とを達觀し、其趣味多き詩筆を揮ひ、山河形勢の偶然にあらず、國民興亡の徒爾にあらず、大地の風象が人類歷史の開展に關係する如何に深且大なるかを說示したるもの、讀者をして感興轉た盡きざるの間に、「眞理を戀ひ慕ふ誠意を以てすれば、地理學は一種の愛吟にして、[illegible]

題して求安錄と云ふ、書や自ら憂愁悲嘆煩悶の餘の記錄たるを示す、まこと是れ著者が死の蔭涙の谷に沈論彷徨して而して安きを得たるの實驗錄なり、著者と境遇苦悶を等うする者、之を讀まば豈唯空谷跫音の感のみならんや、其靈奥に於て深く其彼岸は光明安慰の鄉たるを確信せしむるものなくんばあらず、字に涙痕の斑々たるあり句に血痕の點々たるあり、悚々として人に逼るの所、未だ靈的苦戰の此危急に陷らざる者と雖も之を讀まば亦以て其戰の何如を窺ふを得ん、

◉三版 基督信徒の慰

定價金廿五錢
郵稅金四錢

目次●愛するもの〻失せし時●國人に捨てられし時●基督敎會に捨てられし時●事業に失敗せし時●貧に迫りし時●不治の病に罹りし時

「此書に於て著者は苦しめる基督信徒を代表し、身を不幸の極點に置き、基督敎の原理を以て自ら慰さめん事を勉めたるなり」「信仰と人情とに於ける

兄弟姉妹にして、記者と共に心靈の奥殿に於て靈なる神と交り、悲哀に沈む人靈と同情推察の交換を爲さんとするものは、此書より多少の利益を得る事ならんと信ず」

●英文 余は如何にして基督信徒となりしや

How I Became A Christian)

定價郵税共 金五拾錢

外國諸雜誌の批評●紐育「評論」(The Critic)獨特の書なり若し他に是に類する書ありとするも吾人は未だ曾て之に接せず●ミチアポリス「時事」(The Times)近來世に顯はれたる最も著しき書の一なり●シカゴ「進歩」(Advance)全然獨特の書にして非常の趣味を有す●紐育「國民」(Nation)基督教國と異教國との關係開けてより異教徒の側より未だ曾て此の如く有益にして趣味多き書の出でし事なし●「評論の評論」(Review of Reviews)神學上の問題より離れて著者の公平なることゝ純朴なることゝに一種の興味あり

●月曜講演

定價金貳拾錢 郵税金四錢

目次●カーライルを學ぶの利と害●ダンテとゲーテ。天才と品性●米國詩人。南米詩人●文學としての聖書

此は著者が多年最も愛讀し且つ咀嚼したる文學者及其文學等に關する講演の筆記なり、固より文學の評論なり、然れども尋常の評論以外更に當今の時世に向て主張し教訓せんとせし所多く、讀者をして文學の眞趣を味ひつゝ兼て人生の本旨に想到せしむるものあらん、

●貞操美談 路得記

定價金拾五錢 郵税金貳錢

聖書の理想的婦人の如何なるものなるかを見るべきの書にして、またユダヤの古代に於ける義風を想察せしむる好物語なり、註解警援にして一段の精彩を發揮せり、

エト3R-32

◉傳道之精神

定價金拾五錢
郵税金四錢

聞く或種の「傳道師」と「神學生」とは甚だ此書を忌避すと、然れとも誠實なる傳道者と求道者との爲めには參考の料を供する多し、

◉小憤慨錄

定價金參拾錢
郵税金四錢

著者衷心の大憤慨が機に觸れて閃發したる文學宗教教育時事等に關する論文と韻文とを蒐集したるものなり、

東京市神區田佐柄木町廿一番地
東京獨立雜誌社販賣部

37
236

後世への最大遺物

内村鑑三

国立国会図書館

020630-000-6

37-236

後世への最大遺物

内村　鑑三／著

M32

ABI-0446